

「神様の夢に生きる！！」

～夢を受け継ぐにふさわしく生きる～

出エジプト32：11～16

■ 神を中心に

モーセは民が言うことを聞かなくていかげん疲れ果てました。ヨセフは大臣として自分の民を引き連れて来ておびただしく増えましたが、奴隷となってピラミッドを作り毎日が苦しかった。豊かになったら神様に背く、そして「もうやだ、こんな奴隷としての人生はやってられない。」ずっと文句の連続。イスラエルの民の人生はずっとこの繰り返しでした。

イスラエルの民には「あなたを海の砂、星のように増える」夢があったのです。しかし、神は、アブラハムに全く真逆の「あなたの息子をささげよ。」と言われました。でも、アブラハムは人生のその中心に神様を置いたのです。アブラハムは親の財産を断ち切り、自分の人生を生きるという生き方に進んだことがわかります。今でも親子の関係をしっかりと断ち切れた人は、その人生を確立することができます。しかし、いつまでもお互いに依存関係を持っているとその関係が私たちを悪くしてしまうことが多々あります。私たちクリスチャンは子育てをするとき、この御言葉に立って親から離れられるように、自らの道が歩めるように伝えることがとても大事です。神の法則というのは、やれば必ず反映するのです。ところが中心に神がいなくて何も残らなくなるという大変な問題になります。

■ 燃え尽きることの無い柴 アカシアの木

モーセは、モーセの人生によく似ている荒野で生きるために神様が適応させたすごい能力を持ったアカシアに出会うのです。アカシアは枯れているのに燃えないのです。アカシアはギリシャ語で「アキス」と「げ」という意味で、棘によって自分を守る状態が、それが枯れて自分を守れない失望した状態を指すのだと言われています。契約の箱はアカシアで作られています。それだけ素晴らしい神がいる場所として選んだような人、それがあなたです。モーセもそうです。ところが、モーセは80年間荒野にいてとうとう自分は何もないという絶望のどん底でした。そこに、神様はわざわざ燃えて何も価値がないようなアカシアを見せてそれが燃えていない。神様のやり方はあなたの一番やなことから呼ばわれるのです。神様がされることはその場のぎではないのです。自分に自信を失ってから、もう一度「私がある」とともにいる」という自信を与えるのです。和解がなされ、解決がなされるのですが遠回りしていたのは誰だったのでしょうか？棘を生やしたままでは役に立たないのです。ところが命をなくしたようなアカシアの木から神様は役割を果たします。枯れないと燃えないのです。苦難が多ければその都度、神様は変え、用いているではないですか。

■ 夢の実現に向けた訓練 マサか！！

イエス様が荒野で誘惑を受けるのには意味があったのです。すべて申命記から返答しているのです。モーセのことをイエス様は考えていたのです。イエス様にとって、これから十字架にかかれて死ぬために働くスタートです。これから自分を一切殺して、一度も失敗が許されないのです。普通の誘惑に見えますが、この時イエス様にとって一番痛い所を疲れた誘惑だったのです。これから十字架に架かりに行くのです。悪魔がこの地を与えるという誘惑とイエス様が十字架に架かってこの地を引き戻すことは同じことで、誘惑を聞けば痛い思いをしなくて目的が果たせたのです。ふつう楽しんで生きたいと思うではないですか。しかし、自分のためにそんなことをしては、この世に生きてきた意味がないのです。私たちが失敗するから彼は一度も失敗が赦されないのです。だから、とことん失敗しないやり方をここでとことんやらされたのです。どうして、失敗しないようにしたかというのが申命記6章になるのです。申命記6章がイエス様が守れと言った約束で立法なのです。イエス様は申命記6章を彼自身が守ることで人々に伝えたのです。私たちは「神を愛し隣人を愛する」というテーマが、理解できているが現実できなくなっているのです。では、どう

やってできなくなっているのかということ、自分を愛していないからです。自己愛の強さは自信ではありません。「神様が一緒にいるからそれがなせるのだ」「主を礼拝する」ということをイエス様を通してマサを通して伝えたのです。毎回備えられているにも関わらず、必ず解決するのにも関わらず、彼らは毎回文句を言い続けていたのです。何故かということ、信頼（自分が神様から愛されているという自信）が自分にも神様にもなかったからなのです。

■ 一喜一憂を棄て神様を感じる！！

タルムートの中に「自分が自分のために自分の人生を生きないのであれば、いったい誰が自分のために生きてくれるのだろうか？」という言葉があります。皆さんが一時の感情で自分の人生を破壊するとどうなるかということをお神様が伝えたいのかがわかります。神様はあなたに夢を与えます。イエス様にも神様から託された夢がありました。しかし、イエス様にとってその夢をかなえることは戦いででした。でも、皆さんは戦いではありません。イエス様がそこで戦ってくれたので私たちは戦わずして夢を得ることができるのです。「あなたが撒かないものを刈り取る時、あなたが植えなかったものを食べる時、荒野で神があなたを祝福されたことを忘れてはならない。」と書いてあったのです。夢をかなえる方法の一つで「あなたがどんなときも神様を忘れない」ということです。「あなたが豊かで満ち足りたとき、荒野で神があなたをどう導いたのかを思い出して子供たちに伝えなければならない。」と言われているのです。今日、神様があなたに何を与えようとしているかを、ちゃんと感じてほしいのです。神様が一緒に行かないで夢がかなえられることはありません。何故かということ、私たちが私たちを保てないからです。皆さんが自分を保てなくなれば、自分を律することができないで相手のせいにするのであれば、その夢が叶はずがありません。だから、神様はその夢を与えるために訓練し育てるしかありません。その、育てられている最中に心を固くしてはならないと言われています。そして、繰り返しははいけません。必ず夢は叶います。今週あなたの前に何かが起こった時に行動しないでください。あなたが焦って何かをすると壊れます。神様は始められる前に40日間、飲まず食わずで制したのです。みなさん、今日この御言葉に立っていただきたいのです。イエス様が選んだ道は「神様を愛する」ただそれだけの道でした。そして、イスラエルの選んだ道は「ただ繰り返す」という道でした。早いほうがいいです。気づく方法の一つです「神様を愛してください」。愛する方法は一つです「あなたのそばに神様を感じてください」。聖書は成功の哲学ではなく、幸せの哲学と言われています。聖書は最後に幸せになる方法です。クリスチャンになったら悪魔の攻撃は受けられないのでしょうか？イエス様にも来るのですから私たちにも来るのです。どうやって追い出したのでしょうか？「イエスの御名によって出ていけ」と言って追い出したわけはありません。イエス様の方法は悪魔に勝ったのではなく、自分に勝ったのです。「隣に神を置くことだ」ということがわかるのです。あなたの夢が叶ってほしいのです。そのための方法の一つです。イエス様と一緒に生きるしかありません。是非、皆さん、今日、神様を選んでほしいと思います。

(要約者：澤口 建樹)

(2月5日)